

「令和の日本型学校教育」を担う先生方へ
～ 自らに問いながら、自らを磨き続ける ～

揖斐郡中学校長会長 福井 康弘

新しい時代の流れの中で、学校現場の在り方も大きく変わろうとしています。「令和の日本型学校教育」を担う先生方に、これからの子供たちの未来、将来の幸せが託されています。

「グローバル社会」、「多様性が尊重される社会」、「持続可能な社会」と子供たちを取り巻く環境が大きく変化する中においても、「自分を見失うことなく、自分には居場所があり、まわりの人は自分の存在を喜んでくれている。自分の存在がまわりの人に幸せをもたらしていて、そんな自分であることがうれしいという自己肯定感（自分が好きだという感覚）」を、これまで以上に育み、目の前の子供たち一人一人に、自らの人生をたくましく切り拓き、幸せに生きていくための「生きる力」を身に付けさせていくことが、教師としての使命であると考えています。

これは、自分に自信がもてず悩んでいた6年生の男の子が2学期を振り返って書いた作文です。

ぼくは、みんなの前で走るのが苦手です。体育の授業の中でも、クラスのみんなから「がんばれ!」「だいじょうぶ!」「いけるよ!」と、声をかけられていても、勇気を出して走ることが、なかなかできませんでした。

でも、今年の運動会では、いつも励ましてくれる、みんなの応援の声に背中を押してもらって、勇気を出して走ることができました。ゴールした時、友達や先生がとても喜んでくれました。ぼくもうれしかったです。

自分一人では、できないことや苦手なことがたくさんあるぼくだけど、振り返ってみると、ぼくのまわりにはいつも友達の励ましの声や先生の助けがありました。それがあったから、ぼくは学校生活の中で、いろいろなことにチャレンジができたと思います。

ぼくのまわりには、やさしい思いやりの心をもった人たちがたくさんいます。ぼくも自分がみんなにしてもらったように、困っている人がいたら、声をかけたり励ましたりできる思いやりをもった人になりたいです。

男の子の頑張りも素晴らしいし、それを自分のことのように喜んでくれる仲間や先生がいることが、とても素敵です。きっと毎日の生活の中で、先生の優しい心が子供たちに届いているから、こんな素敵な子供たちが育つのでしょう。そんな温かい学級で育った子供たちは、自分に自信をもち、自分と仲間の幸せを大事にできる人間へと成長していくことができるのではないのでしょうか。

自信は、一人一人の子供を、真に大切にする教育の中でこそ育まれます。その自信をもとに「自らに問いながら、自らを磨き続ける」ことを通して、幸せいっぱいの人生を歩み、自己実現に近付いていくことができるのだと思います。

令和の時代をたくましく生きていく子供たちの教育を担う先生方には、これからも一人一人の子供の心を大切に、愛情いっぱいに目の前の子供たちを育てていただきたいと心から願っています。

結びに、教員当時に東日本大震災で被災され、その後支援活動や各地で講演をされている村上育朗氏の言葉を紹介します。

「我々の前にいるのは、生徒・子どもではなく、『未来』である」

R6 後期の揖斐郡教育研修センターの運営方針

令和6年度の後期には、次の10のキーワードを重点にして揖斐郡教育会事業、揖斐郡教育研修センター事業に取り組んでいきます。

『10のキーワード』

- ① 「揖斐郡の教育活動の向上をはかる」
- ② 「揖斐郡の児童生徒の成長と揖斐郡教職員の資質・指導力の向上を目指す」
- ③ 「児童生徒の情熱や意欲・達成感・自己肯定感を生み出す」
- ④ 「成果に直結する事業の在り方を工夫する」
- ⑤ 「学校現場の声に耳を傾け、センター事業の改善を行う」
- ⑥ 「ねらいを焦点化した効率的な事業によりスリム化を図る」
- ⑦ 「各校の教育実践に役立つ事業を工夫する」
- ⑧ 「郡のICTの拠点的な役割を揖斐郡教育研修センターが果たす」
- ⑨ 「学校・保護者・ほほえみ教室が連携した教育相談の充実を図る」
- ⑩ 「郡学校保健会・郡PTA連合会の活動の成果を郡全体で共通理解する」

『10のキーワード』を受けた具体的な取組と評価の視点

- 「揖斐郡の教育活動の向上」、「取組が成果に直結」、「スリム化されているか」を常に問い返す。
- 学校現場の声に耳を傾けながら、センターが主催する学校教育関連事業・事務局事業の充実を図る。
- 児童生徒が取組に対する情熱や意欲をもって取り組み、自己肯定感や達成感がもてる文化事業を実施する。（科学・社会科作品展、ふれあい作品展、図美展、読書感想文コンクール）
- 「ねらいを焦点化した効率的な事業」揖斐郡教職員の資質や授業力を高める効果的な研修や教育会事業の工夫する。
- 揖斐郡の児童生徒の成長や揖斐郡教職員の指導力の向上につながることを大切にした郡教育研究実践論文、郡教育会研修総会、郡教育研究員事業などの工夫
- 各校の教育実践に役立つ資料のデータベース化、教育実践論文、各学校の教育活動に役立つ積極的な資料提供を行う。
- TEAMSを活用したオンライン会議や研修、グーグルフォームによるアンケート、Geminiなどの生成AIの有効的な活用法の工夫、郡センターHPなどのコンテンツのよる積極的な広報活動（特に新設の掲示板の活用推進）→郡のICTの拠点的な役割
- 学校・家庭・ほほえみ教室の連携による教育相談活動の充実
- 郡学校保健会・郡PTA連合会の活動の成果の共通理解＋成果を学校活動の充実や児童生徒の成長に生かす。

R6 郡科学作品展・社会科課題追究作品展

9月7日(土)・9月8日(日)に「令和6年度揖斐郡科学作品展」・「揖斐郡社会科課題追究作品展」を池田町中央公民館で実施しました。

作品展には夏休みの間に児童・生徒のみなさんが熱心に取り組んだ素晴らしい作品が各校から出品され、作品展では600名以上の方に参観していただきました。各作品展の出品状況・入賞者は以下の通りです。

総参観者数 607人 (昨年度: R5 609人 R4: 569人)
 第1日: 9月7日(土) 301人 第2日: 9月8日(日) 306人

令和6年度 揖斐郡科学作品展

郡での 総取り組み数	郡作品展出品数	入賞数			
		金賞	銀賞	入選	県作品展出品
345点	70点	10点	16点	44点	4点

令和6年度 郡科学作品展の金賞受賞作品

研究の部				
めざせ! せんこうはなび めいじん	小島小	1年	かわい あおい さん	
何がうくかな、しずむかな? ～うけ! ぼくのたけふみ号～	春日小	2年	小椋 たけふみ さん	
めざせ! たまごやき5つ星シェフ ～さめてもおいしい ふわふわレシピのひみつ～	北小	3年	見屋井 花 さん	
お花はどんな飲み物が好き!?	温知小	4年	森 紘 さん	
ふりこのひみつをさがろう! ～ゆれたり、回転したりするおもちゃを作ろう～	春日小	5年	小椋 風花 さん	
どンドンふくらむお米パンの可能性 ～おいしい! ヘルシー! アレルギーなし!～	北小	6年	見屋井 陸 さん	
手作りで正確な温度計は作れるのか	池田中	1年	武仲 広翔 さん	
科学工作の部				
水力発電	揖斐小	3年	坪井 悠紘 さん	
標本・採集の部				
小さなセミのぬけがら大きくしてみたよ!	西小	2年	丹羽 悠晴 さん	
ねお川の石の研究	東小	4年	小里 葉月 さん	



令和6年度 揖斐郡社会科課題追究作品展

郡での 総取り組み数	郡作品展出品数	入賞数			
		金賞	銀賞	入選	県作品展出品
202点	51点	8点	8点	35点	9点

令和6年度 郡社会科課題追究作品展の金賞受賞作品

ぼくのはたらく車図かん パート2年	春日小	2年	小椋 やすふみ さん
乙原歌舞伎について調べよう ～岐阜県の地歌舞伎を通して～	北方小	4年	高橋 穂香 さん
大野の古墳に oh no! ～もっと知ってほしい い大なる大野町の古墳～	南小	4年	青木 萌咲 さん
「自分の命を守ろう!」小学校と通学路の防犯対さく～私にできることを考えよう～	南小	5年	青木 桜和 さん
食品ロス問題から未来を考える	池田小	5年	竹中 綸葉 さん
自分のルーツを探る	南小	6年	堀向 花乃 さん
Back to the Kofun ～奈良の古墳から岐阜の古墳～	揖斐川中	2年	所 勇杜 さん
戦国時代は何を保存食にしていたの??	池田中	2年	北野 心規 さん

令和6年度揖斐郡読書感想文コンクール

令和6年度の揖斐郡読書感想文コンクールでは総取組点数が小学校780点、中学校814点の合計1594点で、そのうち、郡の読書感想文コンクールには小学校88点、中学校59点の応募がありました。特選に選ばれた作品は郡の読書感想文集に掲載するとともに、郡教育研修センターのホームページに「デジタル版読書感想文集」としてアップします。

揖斐郡読書感想文コンクール応募・入賞状況

		郡への出品数	特選	入選	佳作	
小学校	自由図書の部	5 3 5	4 4	2	1 1	2 9
小学校	課題図書の部	2 4 5	4 4	4	1 6	2 6
小学校合計		7 8 0	8 8	6	2 7	5 5
中学校	自由図書の部	7 9 4	5 1	2	1 1	3 8
中学校	課題図書の部	2 0	8	0	1	7
中学校合計		8 1 4	5 9	2	1 2	4 5
郡全体		1 5 9 4	1 4 7	8	3 9	1 0 0

令和6年度揖斐郡読書感想文コンクール特選受賞者

課題	ゆうきをもってつたえたい	大野小	1年	大瀧	菜月	さん
自由	ゆう気を出そう	養基小	2年	清水	瑛亮	さん
自由	かけがえのないたった一つの命	小島小	4年	藤内	結菜	さん
課題	ぼくの第一歩	清水小	4年	加勢	悠真	さん
自由	想像力をふくらませる大切さ	南小	5年	青木	桜和	さん
課題	戦争がつかせたうそ	西小	6年	所	彩寧	さん
自由	今日を生きる	池田中	1年	久保田	丈尊	さん
自由	藤沢さんと山添君と私	谷汲中	3年	今村	美音	さん

令和6年度 夏季研修

揖斐郡教育研修センターでは揖斐郡の先生方の資質・指導力の向上を願って、本年度は「教育相談」と「危機管理」に関するオンライン研修を行いました。

(1) 教育相談に関する研修

①日時：7月23日（火） 13:00～16:00

②参加者：揖斐郡内の172名の教職員

③研修内容

演題「叱らないけど譲らない支援 ～発達障がいや不登校の子どもを対象に～」

講師：和歌山大学 教育学部 名誉教授 武田 鉄郎 先生

- 明日から教育実践に活かせる「提案・交渉型アプローチ」の理論について学びました。
交渉型アプローチとは、子どもが「できない」「わからない」「認めてほしいけど・・・」など立ち往生したときに、子どもの主体性や自主性を重んじ、同時に、その子どもに寄り添う状態で子どもが「選択」できる状態を設定し、指導・支援する方法です。
- 発達障害のある子どもの中には、トラウマ症状を呈していて不適応状態になり、生きにくさや行き詰まり感をもち、本来ならば「できる」こともできなくなっていることがあります。このような状態にある子どもの効果的な指導・支援の在り方である「提案・交渉型アプローチ」を紹介し、発達障害のある子どもの自尊感情を育て 可能性を広げる対応・支援の方法を考えていくことを目的として研修を行いました。

(2) 危機管理に関する研修

① 日時：8月1日（木） 9:00～10:30

② 参加者：揖斐郡内の198名の教職員

③ 研修の目的

演題：信頼を築き、トラブルをなくすための学校におけるリスクマネジメントとクライシスマネジメント

講師：池田中学校 松本 正樹 教頭先生

- 信頼を築くための保護者への適切な対応の仕方、苦情や要望、クレームがあった場合の適切な対応、学校におけるリスクマネジメントとクライシスマネジメントなど、日々の学校経営や学級経営等で大切になる危機管理能力を研修を通して揖斐郡の教職員が身に付けることを目的に研修を行いました。



揖斐郡内小中学生の現状から（教育相談）

揖斐郡内において、不登校及び不登校傾向にある児童生徒は、約１００名います。その主な要因を挙げると学業の不振、生活リズムの乱れ・非行、無気力・不安などがあります。

一学期間を通して、無気力・不安が圧倒的に多く、心理的なサポートが求められます。昨年５月以来の規制緩和によって、本来の学校生活にもどりつつあるものの、以前のような学校生活ではないことも確かです。例えば、行事の精選や活動内容の変化、子ども同士のつながりの変化などいくつかの要因が影響していると考えられます。それらも含めて、ＳＣや専門医などの医学的な意見も聞きつつ、諸機関との連携を図りながら今後の対応について早急に進める必要性が出てきています。

次に、児童生徒を支える保護者への支援についてですが、最近は本教室へ来室される方や研修会に参加されて、それぞれのお子さんに対する支援のあり方について、何らかのヒントを掴んで帰られる人が多くなってきています。ただし、これはあくまでもヒントであり、その後お子さんたちに直接関わられたとき、それがすべてうまくいくとは限りません。教師以上に多くの時間を共有していかなくてはならない保護者（特に母親）にとっては、該当児童生徒が安定し、さらには成長していくことは、強い願いであることは間違いありません。そのためにも、タイムリーな教育相談ができる体制を作り上げていきたいと考えています。

学習障がいや愛着障がいの支援に当たっては、児童生徒個人の側面とその家族（特に母親）の側面に関する支援を両立させていくことが不可欠です。職員全体がこれらの障がいを十分に理解し、キーパーソンとなる一人の教師が中心となって適切な対応を行うことを大切にしていきたいものです。

当センターほほえみ教室においては、児童生徒への支援と保護者への支援も合わせて行っています。特に保護者の方々に向けて、下記のような研修会や心の相談会も実施しております。是非ご参加ください。

〈心の相談会〉

	開催日	時間	場所
①	１０月　９日（水）	１４：００～１６：３０	揖斐郡教育研修センター
②	１２月　４日（水）	１５：３０～１７：００	揖斐川町地域交流センターはなもも
③	１月２２日（水）	１４：００～１６：３０	揖斐郡教育研修センター
④	２月１９日（水）	１４：００～１６：３０	揖斐郡教育研修センター

各務原病院臨床心理士の井上修一先生をお招きし、１５分程度の個別の教育相談を実施します。不登校にかかる不安や悩みについて相談することができます。的確なアドバイスをいただけますので保護者の方々に是非ご紹介ください。

〈保護者と教師のための教育相談研修会〉

	開催日	時間	場所
①	１２月　４日（水）	１４：００～１５：２０	揖斐川町地域交流センターはなもも

＜保護者と教師のための教育相談関連図書の貸し出し＞

本教室におきましては、教育相談に関連する最新の図書を多数そろえています。心の相談会や教育相談研修会等で展示し、随時貸し出しも行っています。希望される方はお申し出ください。



ICT を活用したスリム化や教育事業の改善

① 掲示板について

本年度、掲示板を揖斐郡教育研修センターのホームページを設置しました。掲示板により揖斐郡内の教職員が学校を超えた交流ができるようにとの願いで設置したものです。郡教科研の連絡、学校間交流等積極的にご利用ください。

揖斐郡教育会
掲示板

② 生成AIの教育への有効な活用

生成AIは、高度なデータ処理や判断をコンピュータで自動的に行う技術で、入力されたデータの背景にあるパターンやルールを学習し、最適な答えを見つけたり予測をしたりできます。最近 Google Gemini や Microsoft Copilot などがブラウザに搭載されるようになり使いやすくなりました。郡センターで有効な活用法の提案を行うとともに、授業ライブラリー等を通して、郡内各校で実践された生成AIを有効に活用した実践例を郡内に広げていきたいと考えています。

③ ゲーグルフォームについて

ゲーグルフォームを活用したアンケートを実施し、郡内の先生の声に耳を傾けた揖斐郡教育会の事業改善に取り組んでいます。本年度は夏季研修アンケート、郡教育研修総会アンケート、郡学校保健研修総会アンケートや講演内容についての意見や希望を聞くアンケートなどで活用しています。

④ TEAMS によるオンライン会議・研修

揖斐郡教育研修センターでは TEAMS を活用したオンライン会議を目的に応じて活用し、効率のよい会議を行っています。オンライン研修会議、郡教育研究員会、揖斐郡教育会研修総会、実践論文研修会等、様々な場面で TEAMS を活用しています。

令和6年度 揖斐郡学校保健研修総会

7月31日(水)、揖斐川町地域交流センター「はなもも」で令和6年度揖斐郡学校保健研修総会を行いました。

総会には、郡三師会の先生方、郡学校保健会理事様、郡内各校の校長先生、保健主事、養護教諭、栄養教諭、体育主任の先生方、PTA会長様など117名の方にご出席いただきました。

第一部の総会で会長様・副会長様のご挨拶、郡学校保健会功労者表彰、郡学校保健環境衛生活動優秀校の表彰、歯の健康優良児童事業及び郡学校環境衛生活動の講評を行いました。

また第二部の講演では、「スマホ・ゲーム・ネットの使用に伴う問題とその対応～家族や学校でできるネット・スマホ・ゲーム依存にならない方法～」の演題で、NPO日本次世代育成支援協会 鷲津秀樹先生にご講演をしていただき、研修を深めることができました。お忙しい中、郡内学校保健関係者の多くの方にご参加いただき、どうもありがとうございました。



郡学校保健研修総会についての参加者の感想・意見



- ・歯の健康児童事業や学校環境衛生活動の講評について、どのような活動をしていくべきなのかが具体的にわかるため、ありがたいです。
- ・勉強になる話ばかりで、とてもためになりました。特に、学校環境衛生活動の講評は、真似したいと思える共有がされ勉強になりました。

- ・毎年、具体事例をもとにした講演が聞けて、その後の指導につなげることができます。子どもたちの健康安全に関わって医師会の先生方からお話をお聞きすることができる機会は大切だと思います。学校保健に関わる多くの人が集まって研修できるよい機会だと思いました。

講演についての感想や意見

- ・情報モラルやネットの怖さに関する講演、研修はいろいろ参加しましたが、ネット依存については初めてで、非常に有意義でした。ネット、スマホに限らず、子どもが抱える諸課題について繋がるものがあり、とても良かったです。
- ・正しい情報を自分で選び取る力をつけること。ネットだけではなく、周りの人たちと対話する力、自己表現力をつけることが必要だと考えます。そのために、授業の中で、周りに関わりながら学び場の設定や情報モラルの学習を取り入れていきたいと思います。
- ・ネットのメリット・デメリットを確実に理解させることだと思います。本校では、学校医の先生や警察の方などの専門機関と連携しながら児童対象に講演会を行っていますが、そのように児童自身が正しい知識を培うことがよりよい可能性につながると考えています。活用を通して、ネットに潜む危険を十分に理解したうえで効果的な活用ができると感じています。今後の指導としては、家庭の協力が不可欠なため保護者を巻き込んだ指導を考えていきたいです。
- ・今回のような講演会を学校でも開催したり、子どもと保護者が一緒に考える場(授業)を設定したりするとよいのではないかと思います。